シラバス（授業概要） 時間数は50分換算	年　度	2025年度
	科目コード	2

授業科目名	授業形態	学科・コース
コミュニケーション活動Ⅱ	(講義)・演習	美容・ヘアメイク科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	60	2	鈴木　由美　森脇　勘成 吉澤　優人　　岡村　迪子 森川　真琴

授業の目的・目標

様々な場面で柔軟に対応し、協調性ある行動ができるようになる。自身の学校生活を見直し、身の回りの清掃整理を行い、成長のステップに繋げる。

授業の概要

イベント行事やグループ活動を通しコミュニケーションの重要性を理解する。日々の学業の振り返りを行い、生活環境を整える。

成績評価の方法

1．平常点（主体的な授業参加度） 2．学習意欲（授業に取り組む姿勢）	平常点	80%
	学習意欲	20%

使用テキスト・教材

タブレット端末、筆記用具類

授業内容・授業計画

		時間数		時間数
1.	オリエンテーション	4		
2.	〃	4		
3.	〃	4		
4.	〃	4		
5.	学校行事	4		
6.	芸術鑑賞	4		
7.	〃	4		
8.	健康診断	4		
9.	レクリエーション	4		
10.	〃	4		
11.	〃	4		
12.	〃	4		
13.	学科活動	4		
14.	〃	4		
15.	〃	4		60

その他	関連科目
※単元ごと演習課題を実施する。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。	

シラバス（授業概要） 時間数は50分換算	年　度	2025年度
	科目コード	4

授業科目名	授業形態	学科・コース
ITリテラシーⅡ	講義・演習	美容・ヘアメイク科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	30	1	鈴木　由美　森脇　勘成 吉澤　優人　　岡村　迪子 森川　真琴

授業の目的・目標

デジタルに強い学生を育てることで、現代の現場から求められるデジタルスキルやマインドを磨く。リテラシーを高め、トラブルを未然に防げるような基礎を身につける。

授業の概要

SNSの活用方法、AIの活用方法など、幅広いデジタル活用方法を題材に学ぶ。

成績評価の方法

１．課題（提出さえた課題の完成度と提出率） ２．平常点（主体的な授業参加度） ３．学習意欲（授業意欲の有無、授業に取組む姿勢）	課題	40%
	平常点	30%
	学習意欲	30%

使用テキスト・教材

個人用PC、筆記用具類

授業内容・授業計画

		時間数		時間数
1.	オリエンテーション、インストール状況確認	2		
2.	ITリテラシー①	2		
3.	ITリテラシー②	2		
4.	ITリテラシー③	2		
5.	ITリテラシー④	2		
6.	SNS活用	2		
7.	〃	2		
8.	〃	2		
9.	AI活用	2		
10.	〃	2		
11.	〃	2		
12.	デジタル活用（応用）	2		
13.	〃	2		
14.	〃	2		
15.	まとめ	2		30

その他	関連科目
※単元ごと演習課題を実施する。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。	

シラバス（授業概要） 時間数は50分換算	年　度	2025年度
	科目コード	5

授業科目名	授業形態	学科・コース
関係法規・制度	講義・演習	美容科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	1	佐々木　史

授業の目的・目標

美容業に従事するために必要な、美容師法並びに衛生関連法等美容業に関連する各法律等の正しい知識を身につけて、美容師試験の合格を目指す。

授業の概要

１．日本における憲法を頂点とする法令体系と美容師法や衛生関連法の位置づけの把握　２．日本の衛生行政について　３．美容師法について　４．その他関連法について　５．試験対策

成績評価の方法

Ⅰ．出席状況 ２．授業態度 ３．授業内での小テスト ４．期末試験	平常点	40%
	小テスト	20%
	期末試験	40%

使用テキスト・教材

「関係法規・制度」日本理容美容教育センター
「ワークブック」日本理容美容教育センター
その他のオリジナル教材

授業内容・授業計画

		時間数		時間数
1.	イントロダクション・日本の法制度の概要	2		
2.	衛生行政の概要	2		
3.	美容師法①目的と用語の定義	2		
4.	美容師法②美容師に関する規定	2		
5.	美容師法③美容師に関する規定	2		
6.	美容師法④美容師に関する規定	2		
7.	美容師法⑤美容所に関する規定	2		
8.	美容師法⑥美容所に関する規定	2		
9.	美容師法⑦立入検査と行政処分・罰則	2		
10.	関連法規①	2		
11.	関連法規②	2		
12.	まとめ	2		
13.	演習	2		
14.	演習	2		
15.	演習	2		

その他	関連科目
※単元ごと演習課題を実施する。 ※法学士称号を持つ教員が担当する科目である。	

シラバス（授業概要） 時間数は45分換算	年　度	2025年度
	科目コード	7

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
衛生管理Ⅱ	(講義)・演習	美容・ヘアメイク科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	30	1	鈴木　宏 森川　真琴

授業の目的・目標

美容師法に基づく内容の把握する。衛生管理の重要性・必要性を身に付ける。美容師国家試験のに合格するための必要な知識を取得する。卒業後も直結する内容も多いいため理解度を上げる。

授業の概要

人の容姿を演出するための美容の仕事を通じて、人々の精神的健康に貢献できるよう人体の構造に関する本知識を身につけることができる。「衛生管理３」では、身体の健康を脅かす感染症とその予防法及び消毒法の概要等に関する知識を身に付け、自らの生活にも適用できる。

成績評価の方法

・定期試験（前期・後期試験）を実施し授業態度、出席状況を考慮して成績を評価する。・評価目安　定期試験　・授業態度・出席	定期試験	80%
	授業態度・出席	20%

使用テキスト・教材

公益社団法人日本理容美容教育センター発行
書名：衛生管理及びワークブック

授業内容・授業計画

	時間数		時間数
1.　感染症の総論	2		
2.　病原微生物	2		
3.　感染症の予防①	2		
4.　感染症の予防②	2		
5.　感染症のまとめ	2		
6.　感染症の各論	2		
7.　主な感染症１・主な感染症2	2		
8.　具体的な対策の例	2		
9.　感染症のまとめ	2		
10.　衛生管理技術、消毒法総論、消毒の意義	2		
11.　美容の業務の消毒・適用上の注意	2		
12.　消毒法各論・物理的消毒法	2		
13.　消毒法各論・化学的消毒法	2		
14.　消毒の実習	2		
15.　まとめ	2		30

その他	関連科目
※単元ごと演習課題を実施する。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。	美容保健

シラバス（授業概要） 時間数は50分換算	年　度	2025年度
	科目コード	9

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
美容保健Ⅱ	講義・演習	美容・ヘアメイク科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	30	1	馬渕　佳奈子 森川　真琴

授業の目的・目標

皮膚・毛髪・人体の構造、機能に関する科学的また知識を美容技術と関連させながら学ぶ。
なぜ美容で人体の構造及び機能を関連させながら学ぶ必要があるのか考察する。
また、皮膚化学を知ることにより、美容がどのように人体に影響するのかを学ぶ。

授業の概要

安全で効果的な美容技術を提供するための基礎となるものを築く。
特に皮膚や毛髪などに関する保健衛生においては、衛生管理と関連させながら
体系的に知識の習得を行う。

成績評価の方法

定期試験（前期・後期試験）を実施し授業態度、出席状況を考慮して成績を評価する。	定期試験	80%
	授業態度・出席	20%

使用テキスト・教材

公益社団法人日本理容美容教育センター発行
書名：保健及びワークブック

授業内容・授業計画

		時間数		時間数
1.	第1章　皮膚の表面、断面、表皮と真皮の堺	1		
2.	真皮、皮下組織、皮膚の部位差	1		
3.	第2章　毛、脂腺(皮脂腺)汗腺、爪	2		
4.	第3章皮膚の血管、皮膚のリンパ管、皮膚の神経	2		
5.	対外保護作用、体温調節作用	2		
6.	知覚作用と皮膚反射、分泌排出作用	2		
7.	呼吸作用	2		
8.	吸収作用、貯蔵作用、免疫、解毒	2		
9.	排除作、再生作用、毛・爪の働き	2		
10.	皮膚と全身状態、皮膚と精神、栄養	2		
11.	皮膚とし好品、皮膚の体内病変	2		
12.	皮膚の水分と脂の状態	2		
13.	皮膚・付属器官とホルモン	2		
14.	皮膚の水分と脂の状態	2		
15.	毛の保護と手入れ、爪の保護と手入れ	2		28

その他	関連科目
※単元ごと演習課題を実施する。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。	衛生管理

シラバス（授業概要）	時間数は50分換算	年　度	2025年度
		科目コード	12

授 業 科 目 名	授業形態	
美容文化論Ⅱ	講義	美容・ヘアメイク科

履修学年	履修学期	必修・ 選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	30	1	橋本　明奈 安冨　万里子

授業の目的・ 目標

美容文化やファッションに関する知識や歴史を身に付け、幅広いデザイン提案ができる美容師になることを目指す。現在は過去の上に成り立っていることを理解し、またファッションや時事の出来事との繋がりを意識することがこれからの歴史を創っていく原動力となる。

授業の概要

日本の理容・美容の歴史及びファッション文化史を単元ごとに進めていく。各単元の最後に小テストを実施することで確実に知識を得る。

成績評価の方法

１．授業への参加；遅刻・欠席の回数 ２．取り組み姿勢 ３．単元ごとの小テスト ４．定期試験（前期・後期）	定期試験	80%
	学習意欲	20%

使用テキスト・ 教材

参考資料の配布
文化論及びワークブック（公益社団法人日本理容美容教育センター発行）

授業内容・ 授業計画

		時間数		時間数
1.	第13節　現代(1960年代)	4		
2.	第14節　現代（1970年代）	4		
3.	第15節　現代（1980年代）	4		
4.	第16節　現代（1990年代～2010年代）	4		
5.	第5章　礼装の種類	2		
6.	和装・洋装の礼装	2		
7.	まとめ・国家試験対策	10		
8.				
9.				
10.				
11.				
12.				
14.				
15.				30

その他	関連科目
※単元ごと演習課題を実施する。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。	

シラバス（授業概要）	時間数は50分換算	年　度	2025年度
		科目コード	13

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
運営管理	講義・演習	美容・ヘアメイク科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	30	1	鈴木　由美 森川　真琴

授業の目的・目標

職業理解と、業界理解を深める。また、それに付随する諸々の知識を身につけ、業界で活躍できる
基礎を作る。

授業の概要

接客・経営管理・労務管理等の基本を学習。

成績評価の方法

定期試験（前期・後期試験）を実施し授業態度、出席状況を考慮して成績を評価する。	定期試験	80%
	授業態度・出席	20%

使用テキスト・教材

公益社団法人日本理容美容教育センター発行
書名：運営管理及びワークブック

授業内容・授業計画

	時間数		時間数
1.　第1章-経営者の視点	4		
2.　経営とは	2		
3.　美容業の経営について	2		
4.　資金の管理	2		
5.　第2章-従業員の視点	4		
6.　人という資源	2		
7.　健康・安全な職場環境の実現	2		
8.　従業員としての視点から	2		
9.　第3章 - 顧客のために	4		
10.　サービスデザイン	2		
11.　マーケティング	2		
12.　人の役割	2		
			30

その他	関連科目
※単元ごと演習課題を実施する。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。	関係法規

シラバス（授業概要） 時間数は50分換算	年　度	2025年度
	科目コード	15

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
美容技術理論Ⅱ	講義・演習	美容・ヘアメイク科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	60	2	鈴木　由美　岩本　ひとみ 森川　真琴

授業の目的・目標

美容技術の基礎を学び、職業意識を高めると共に美容の仕事の充実感を知る

授業の概要

必要に応じて、実際の道具や、画像・動画教材を使用し、理論と実際が結びつく授業を展開する。

成績評価の方法

定期試験（前期・後期試験）を実施し授業態度、出席状況を考慮して成績を評価する。	定期試験	80%
	授業態度・出席	20%

使用テキスト・教材

美容技術理論教科書
モノグサ

授業内容・授業計画

	時間数		時間数
1.　第8章　エステティック	10		
2.　第9章　ネイル技術	10		
3.　第10章　メイクアップ	10		
4.　第11章　日本髪	10		
5.　第12章　着付けの理論と技術	12		
6.　試験対策	8		60

その他	関連科目
※単元ごと演習課題を実施する。 ※実務経験・資格保持教員が担当する科目である。	美容実習Ⅱ

シラバス（授業概要）	時間数は50分換算	年　度	2025年度
		科目コード	17

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
美容実習Ⅱ（国試カット）	講義・演習	美容科・ヘアメイク科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	60	2	鈴木　由美　岩本　ひとみ 森川　真琴

授業の目的・目標

国家試験　実技・衛生減点なし

授業の概要

国家試験課題合格レベルに値する完成度と減点項目・減点数の把握

成績評価の方法

授業態度・授業参加率 チェックテスト結果	平常点	70%
課題提出	課題点	30%

使用テキスト・教材

カット用具類
国試課題参考資料

授業内容・授業計画

		時間数		時間数
1	国試課題（第一課題）導入			
2	ブロッキング・重要ポイントと規定			
3	スタイル構成の把握・作業行程の把握			
4	アウトライン・第3ブロック（行程とベーストシステム）			
5	第2ブロック・第1ブロック（行程とベーストシステム）			
6	サイドアウトライン・両サイドの作業行程			
7	全行程確認　計測40分（エアーカット）			
8	全行程チェック　計測40分（エアーカット）			
9	全行程確認　計測28分（エアーカット）			
１０	全行程チェック　計測25分（エアーカット）			
１１	実践全行程チェック　計測40分			
１２	実践全行程チェック　計測33分			
１３	実践全行程チェック　計測28分			
１４	実践全行程チェック　計測26分			
１５	準備時間7分間実践全行程チェック　計測23分			

その他	関連科目
担当は国試実習資格保持者であること	

シラバス（授業概要）	時間数は50分換算	年　度	2025年度
		科目コード	17

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
美容実習Ⅱ（国試オールウェーブ）	講義・演習	美容科・ヘアメイク科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	90	3	鈴木　由美　岩本　ひとみ 森川　真琴

授業の目的・目標

国家試験　実技・衛生　減点なし

授業の概要

国家試験課題合格レベルに値する完成度と減点項目・減点数の把握

成績評価の方法

授業態度(取り組み姿勢) チェックテスト結果 本試験結果	平常点	70%
	課題点	30%

使用テキスト・教材

オールウェーブ用具類
授業記録物
国試参考資料（試験研修センター試験マニュアル・受験案内）

授業内容・授業計画

		時間数		時間数
1	4段目からの復習(5段目含む)			
2	6･7段目(メイボールカール･クロッキノールカール)			
3	国試衛生(2課題通し)			
4	全頭完成　35分間(ループ完成度重視)			
5	全頭完成　30分間(ループ完成度)			
6	全頭完成　28分間（ベランス完成度）			
7	全頭完成　26分間（国試採点基準把握）			
8	全頭完成25分間国試　合格レベル80点			
9	本試験対策（シミュレーション）			
１０	国試衛生（2課題通しシミュレーション）			
１１	全頭完成24分間国試　合格レベル90点			
１２	全頭完成24分間国試　（衛生含む）合格レベル90点			
１３	全頭完成24分間国試　合格レベル100点			
１４	全頭完成23分間国試　合格レベル100点			
１５	全頭完成23分間国試(衛生項目含む)　合格レベル100点			

その他	関連科目
担当は国試実習資格保持者であること	

シラバス（授業概要）	時間数は50分換算	年　度	2025年度
		科目コード	17

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
美容実習Ⅱ（国試ワインディング）	講義・演習	美容科・ヘアメイク科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	90	3	鈴木　由美　岩本　ひとみ 森川　真琴

授業の目的・目標

国家試験　実技・衛生減点なし

授業の概要

国家試験課題合格レベルに値する完成度と減点項目・減点数の把握

成績評価の方法

授業態度(取り組み姿勢) チェックテスト結果 本試験結果	平常点	70%
	課題点	30%

使用テキスト・教材

ワインディング用具類
授業記録物
国試参考資料（試験研修センター試験マニュアル・受験案内）

授業内容・授業計画

		時間数		時間数
1	全頭22分(タイム内重視)衛生含む			
2	全頭20分(早巻き16分)衛生含む			
3	全頭20分(左右対称)衛生含む			
4	全頭20分(スライスの完成度)衛生含む			
5	全頭20分(バランス重視)衛生含む			
6	全頭20分衛生含む			
7	全頭１９分衛生含む			
8	全頭１９分衛生含む			
9	全頭１８分＋１分衛生含む			
１０	全頭１８分＋１分衛生含む			
１１	国試2課題通し　シミュレーション			
１２	本試験（国試合格レベル８０点）			
１３	国試2課題通し　シミュレーション（実技・衛生減点なし）			

その他	関連科目
担当は国試実習資格保持者であること	

シラバス（授業概要）	時間数は50分換算	年　度	2025年度
		科目コード	17

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
美容実習Ⅱ（カラー）	講義・演習	美容科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	60	2	鈴木　由美　岩本　ひとみ 森川　真琴

授業の目的・目標

「信頼とお金を稼げる美容師1年目」のために即戦力となる美容師の育成。

授業の概要

カラー技術における基礎～最先端のスキル習得を主としたカリキュラムとともに、
自らレシピ考案が可能となる理論と実践を組み込むことにより即戦力の美容師を育成。モデル施術を重点的に行い、ハイライトを用いた特殊カラーの習得も目指す

成績評価の方法

定期テスト 70% 受講態度他 30%	平常点　100%

使用テキスト・教材

ハケ 赤2/黒2
カップ 赤2/黒2
カラー材

授業内容・授業計画

		時間数		時間数
1	モデル通常カラー（3人1組モデル2人）	2		
2	モデル通常カラー（3人1組モデル2人）	2		
3	モデル通常カラー（3人1組モデル2人）	2		
4	モデル通常カラー（3人1組モデル2人）	2		
5	モデル通常カラー（3人1組モデル2人）	2		
6	モデル通常カラー（3人1組モデル2人）	2		
7	ウィッグハイライト	2		
8	ウィッグハイライト	2		
9	ウィッググラデーション塗布	2		
10	ウィッググラデーション塗布	2		
11	ウィッグリタッチブリーチ	2		
12	ウィッグリタッチブリーチ	2		
13	モデルブリーチカラー	2		
14	モデルブリーチカラー	2		
15	テスト	2		

その他	関連科目
※実務経験のある教員が担当する	

シラバス（授業概要）	時間数は50分換算	年　度	2025年度
		科目コード	17

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
美容総合実習Ⅱ（シャンプー＆スパ＆カウンセリング）	講義・演習	美容科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	1	池ヶ谷　慎一郎

授業の目的・目標

・お客様の心地よいタイミングやトーンで声掛けができる
・モデルの状態を判断し、適切な提案や判断ができる
・期待以上のシャンプーマッサージができる

授業の概要

1年次習得した技術を更に向上させる。より実践的なサロンシャンプーを習得する。

成績評価の方法

1, 主体的な授業態度　2, 学習意欲　3, オーディション	主体的な授業参加度	20%
	学習意欲	20%
	オーディション	60%

使用テキスト・教材

シャンプー　トリートメント　アウトバス　炭酸　タオル　シャンプークロス　スタイリングに要する物（アイロン・スタイリング剤）

授業内容・授業計画

		時間数		時間数
1	シャンプーSPA反復練習	1		
2	シャンプーSPA反復練習	1		
3	シャンプーSPA反復練習	1		
4	シャンプーSPA反復練習	1		
5	オーディション　他者評価　Lv.2	1		
6	オーディション　他者評価　Lv.2	1		
7	オーディション　他者評価　Lv.2	1		
8	２年度最終オーディションLv.3	1		
9	２年度最終オーディションLv.3	1		
１０	深い4タイプ理解　ワークショップ	1		
１１	カットセミナー　前髪の似合わせ　提案プレゼン	1		
１２	サロンワークの理解を深める	1		
１３	サロンスタイル作り	1		
１４	サロンスタイル作り	1		
１５	発表会	1		

その他	関連科目

シラバス（授業概要）	時間数は50分換算	年　度	2025年度
		科目コード	19

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
美容総合実習Ⅱ（JMA2級）	講義・演習	美容科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	1	徳差 あつこ 岡村 迪子

授業の目的・目標

JMA2級を目指す
メイクアップの基本を学び知識と安定した技術力の土台を身につけて
正確で丁寧なメイクアップができるようになる

授業の概要

メイクアップ技術、知識だけではなく他者への気配り、美容従事者としての誇りをもち、職業としてメイクアップにかかわる基礎を身につける

成績評価の方法

１，平常点（全体的な授業参加度） ２，学習意欲（取り組む姿勢、マナー、社会人としての礼儀） ３，試験結果（点数）	1 2 3	30% 30% 40%

使用テキスト・教材

日本メイクアップ技術検定試験公式テキストGRADE3,2、筆記用具、鏡、UTOWAメイクアップ道具一式、消耗品など美容技術に必要な品物、ドール、クランプ

授業内容・授業計画

		時間数		時間数
1	2級試験要領顔のバランス分析、課題順序			
2	ベースメイクⅡブラシテクニック ファンデーション、パウダー			
3	ポイントメイクアップテクニック アイメイク			
4	ポイントメイクアップテクニック アイブロウ			
5	ベースメイク修正ブラシテクニック コントロールカラー、コンシーラ			
6	ポイントメイクアップテクニックリップ、チーク			
7	色と形のバリエーションメイクテクニック			
8	色と形のバリエーションメイクテクニック			
9	色と形のバリエーション（リップ、チーク）メイクテクニック			
１０	課題フルメイクアップ			
１１	課題フルメイクアップ、スキンケア顔分析			
１２	課題フルメイクアップ、スキンケア顔分析			
１３	スキンケアテクニック（ローション乳液）ベースメイク～ポイントメイク			
１４	模擬試験レッスン①実技試験内容			
１５	模擬試験レッスン②実技試験内容			

その他	関連科目
※実務経験のある教員が担当する ※説明、展示、実習で進行する	

シラバス（授業概要） 時間数は50分換算	年　度	2025年度
	科目コード	19

授業科目名	授業形態	学科・コース
美容総合実習Ⅱ（アイラッシュ）	講義・(演習)	美容・ヘアメイク科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	1	田中　成佳

授業の目的・目標

・まつ毛エクステンション技術のより現場に近い実践的な技術習得
・ラッシュリフト理論の知識習得

授業の概要

・エクステンションの装着の実践的なタイム感に近づけることを目指します。
・ラッシュリフト理論の知識習得を目指します。

成績評価の方法

1. 平常点（授業に取り組む姿勢）
2. 課題・演習（技術の完成度）
3. 筆記試験結果

平常点	40%
課題・演習	50%
筆記試験結果	10%

使用テキスト・教材

テキスト：まつ毛エクステンション基礎
教材：ツィーザ、エクステンション、グルー、リムーバー

0. 3

		時間数		時間数
1.	ラッシュリフト基礎座学、筆記試験	1		
2.	フフットフッシュタイムアップテモンストレーション	1		
3.	フラットラッシュ装着実習	2		
4.	デザイン装着実習、シャープデザイン	1		
5.	テサイン装着実習、エレガントテサイン	1		
6.	カラーエクステ装着実習	1		
7.	フラットラッシュ装着実習	6		
8.	フラットラッシュ模擬試験	1		
9.	フラットラッシュ最終試験	1		
10.				
11.				
12.				
13.				
14.				
15.				

その他	関連科目
※単元ごと演習課題を実施する。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。	

シラバス（授業概要） 時間数は50分換算	年　度	2025年度
	科目コード	21

授業科目名	授業形態	学科・コース
美容総合理論Ⅱ（キャリア）	(講義)・演習	美容科・ヘアメイク科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必須	30	1	吉竹　てるみ

授業の目的・目標

・顧客意識を高め、お客様に喜ばれる接客ができるようになる。
・コミュニケーションスキルを高め、チームで仕事をすることの重要性を学ぶ。
・就職活動に向けての心得と対策を学ぶ。

授業の概要

・サービス業において必要となる顧客意識とは何か、また具体的な表現方法の習得を目指します。
・お客様やスタッフ同士のコミュニケーションスキルの向上を目指します。
・就職活動においてのポイントを伝え、『絶対就職』を目指します。

成績評価の方法

1. 筆記試験（小テスト、学期末試験等の実施）

筆記試験	50%
課題・演習	30%
平常点	20%

使用テキスト・教材

・A4クリアファイル（ポケットファイル30枚～40枚程度）
・ノート（ルーズリーフ）　・筆記用具
・タブレット

授業内容・授業計画

		時間数
1.	オリエンテーション（シラバスの説明、授業の進め方、成績評価について）　1年次の復習	
2.	就職活動①（就職活動への取り組みと心構え・自己PRのポイント）	
3.	就職活動②（面接時の立ち居振る舞い）＜演習発表＞	
4.	美容師・販売員としての心構えと接客応対	
5.	接客応対の流れをロールプレイングで学ぶ	
6.	接客ロールプレイング総復習と発表　＜演習発表＞	
7.	クレーム応対について（初期対応の重要性）	
8.	コミュニケーションとチームで仕事をすることの重要性	
9.	テスト前の復習と学期末試験の実施　＜学期末試験＞	
10.	学期末試験の解答と解説、授業総まとめ	
11.	業界理解と職業理解①	
12.	業界理解と職業理解②	
13.	業界理解と職業理解③	
14.	業界理解と職業理解④	
15.	業界理解と職業理解⑤	

その他	関連科目
※単元ごと演習課題を実施する。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。	

シラバス（授業概要） 時間数は50分換算	年　度	2025年度
	科目コード	24

授 業 科 目 名	授業形態	学科・コース
卒業制作	講義・演習	美容・ヘアメイク科

履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	30	1	鈴木　由美　森脇　勘成 吉澤　優人　岡村　迪子

授業の目的・目標

ヘアショーを通じてチームとして企画する力、表現する力を身につける。

授業の概要

ヘアショーの企画・制作・運営・発表を行う。

成績評価の方法

ショーの完成度・準備の参加度・出席率を評価の対象とする	平常点　100%

使用テキスト・教材

ショーの内容により変動。各自準備する

授業内容・授業計画

	時間数		時間数
1.　ヘアショー企画･制作	28		
2.　発表	2		
3.			
4.			
5.			
6.			
7.			
8.			
9.			
10.			
11.			
12.			
			30

その他	関連科目